

福島県PTA連合会会報
第11号_S55. 10. 01

第29回福島県 P T A 研究大会白河大会

昭和55年10月19日(日)・20日(月)

於 白 河 市

本大会は、県 P T A の本来の活動のあり方について、これまでの実践や研究をもとに、あらゆる角度から問題点を掘り下げ、その解明のために研修する唯一の重要な大会である。

ご承知のとおり、白河市は県南端にあり白河城跡の城下町で、子弟への教育、P T A の活動は盛んで、本大会によせる心

大会は、「子どもの幸せを実現するため、創意と連帯により、P T A 活動の質的改善と実践力の向上につとめよう」をスローガンにかかげ、第一日目は五分科会に分かれて研究協議し、第二日目は全体会と講演である。

ことに大会の花ともいわれる講演は、日本評論家の第一人者である草野大蔵氏を招き、「八十年

早いもので、今年も十月の候を迎えることになりました。

過日は、山形蔵王温泉で、十二回東北 P T A 研究大会が開催されましたが、福島県からは、一七名の皆さんが、遠く蔵王の地まで参会を賜わりそれぞれの分科会において、会員として指導者としての、資質の研修に励んで頂いたこと、誠に有難いことであつたと存じます。

山形大会の終了によって、愈々福島大会へ向けての一步が踏み出された。代の社会を見る眼」と題して、一時間にわたり講演していただくことになったが、魅力ある内容が予想される。

最後に、白河大会が成功裡に終了することを祈る。

考えた次第であります。また、その席上で、ある委員から実際の話柄がとして紹介された事柄は、現代の親の姿を象徴するものとして深く考えさせられるものでした。

即ち、ある保育所で預った子供が熱を出したので母親に連絡をし直ぐ来て貰いたいといった処、母親は、金を出して頼んだ時間内であるから、保育所の責任の範囲内でしょう。といった冷たい対応であつたそうです。

現代の過保護の陰にひそむそうした冷たさ非情さこそ、子供達の非行を生み、非行増加を助長する一つの要素ではないかと感じた処であります。

子の親としてお互いに自分はどうかを振り返りたいと思います。

間もなく、県研究大会白河大会が持たれるわけでありませう。それぞれの単 P から、問題意識に裏打ちされた積極的な参加を頂き、子供達の心身の健康を、力強く推進し育成する大会として、大きく盛り上げて欲しいことをお願い申し上げ御挨拶と致します。

二十一世紀に生きる人間性豊かな子供を育てるために

「八十年代の社会を見る眼」

講師 評論家 草野大蔵氏

第二十九回福島県 P T A 研究大会白河大会は、来る十月十九日・二十日の両日白河市において開催される。

本大会は、県 P T A の本来の活動のあり方について、これまでの実践や研究をもとに、あらゆる角度から問題点を掘り下げ、その解明のために研修する唯一の重要な大会である。

ご承知のとおり、白河市は県南端にあり白河城跡の城下町で、子弟への教育、P T A の活動は盛んで、本大会によせる心

早いもので、今年も十月の候を迎えることになりました。

過日は、山形蔵王温泉で、十二回東北 P T A 研究大会が開催されましたが、福島県からは、一七名の皆さんが、遠く蔵王の地まで参会を賜わりそれぞれの分科会において、会員として指導者としての、資質の研修に励んで頂いたこと、誠に有難いことであつたと存じます。

山形大会の終了によって、愈々福島大会へ向けての一步が踏み出された。代の社会を見る眼」と題して、一時間にわたり講演していただくことになったが、魅力ある内容が予想される。

最後に、白河大会が成功裡に終了することを祈る。

考えた次第であります。また、その席上で、ある委員から実際の話柄がとして紹介された事柄は、現代の親の姿を象徴するものとして深く考えさせられるものでした。

即ち、ある保育所で預った子供が熱を出したので母親に連絡をし直ぐ来て貰いたいといった処、母親は、金を出して頼んだ時間内であるから、保育所の責任の範囲内でしょう。といった冷たい対応であつたそうです。

現代の過保護の陰にひそむそうした冷たさ非情さこそ、子供達の非行を生み、非行増加を助長する一つの要素ではないかと感じた処であります。

子の親としてお互いに自分はどうかを振り返りたいと思います。

間もなく、県研究大会白河大会が持たれるわけでありませう。それぞれの単 P から、問題意識に裏打ちされた積極的な参加を頂き、子供達の心身の健康を、力強く推進し育成する大会として、大きく盛り上げて欲しいことをお願い申し上げ御挨拶と致します。

福島市黒岩字田部屋53-5
福島県青少年会館内
福島県 P T A 連合会
発行人 菅野久俊
印刷 泉孔印刷所
福島市泉字熊野13-1
電話 57-1071



県連 P 会長 菅野久俊

お互いに姿勢を正そう

＜ 安 達 ＞

奉仕の精神を
育てるための活動

二本松第一中学校父母と教師の会

本校教育目標の中に、

② ねらいと内容

「勤労をよるこぶ」「郷土を愛する」という二項目がある。この項目を具

現するために、本校 P T A では毎年次の様な活動

を積極的にすすめている。

一、各学友区単位のボラ

ンティア活動

① 計画

長期休業前、各学友区

の運営委員と生徒達で、

活動内容や実践方法につ

いて計画立案する。

② ねらいと内容

活動内容は、各学友区

によつていろいろ特徴が

あるが、共通のねらいは、

自分達の住む町を住みよ

い心豊かな町にしてゆき

たいということである。

活動にあたっては、運営

委員が世話役となり、あ

るいは相談相手になつて

作業をすすめる、学校の指

導の手から全く離れた P

T A 独自の手によつてそ

れぞれの学友区で実績を

あげている。

③ 活動の具体的事例

安達太良山のゴミ回収

作戦、二本松少年隊並び

に丹羽家（旧二本松城主

の霊廟清掃、町内神社の

境内清掃、廃品回収、二

本松駅舎清掃、歩道橋上



安達太良山のゴミ回収

る特徴があり非常に興味深い。また、生徒の発想を尊重するので、活動は極めて意欲的積極的である。

二、親子協同奉仕

活動

① 計画

学校周辺の除草

・ 整枝作業および

清掃美化作業は、

毎年厚生委員会が

中心となり、生徒

会奉仕部会とタイ

アップして、二回

以上実施している。

② ねらいと活動内

容

本年は日曜早

朝に実施した。作

業内容は、親は整

枝、草刈り、生徒

はそれらの運搬や

跡地の清掃等文字

通り親子の協同活

動である。実際に

はこれに教師が加

わるので、三者の

協同奉仕活動とな

り、協力の尊さや

勤労の喜びを体得

するまたとない機会であ

る。

③ 結果

すべての会員から、大

変好評であった。

特 色 あ る P T A 活 動

＜ 両 沼 ＞

企画特集「あゆみ」の発行を

全て会員の手で

会津坂下町立坂下小学校慈善会

広報紙「あゆみ」

の定期発行が慈善

会を象徴する。「あ

ゆみ」は学期ごと

に年三回の発行で

会員間の連絡、ま

たは教育に関する

諸問題の提供の場

として長い伝統に

支えられている。

編集から配布まで、

すべて会員の手で

まかなうという、

「会員のための会

報」の自覚が脈々

として受け継がれ

ている。

「あゆみ」は昭

和三十四年、ガリ

刷りタブロイド二

ページの「坂小校

報」が創刊号。翌

年夏公募によつて

「あゆみ」という

題字が生まれ、以

来六十二号を数え

た。活版印刷になつたの

は昭和四十二年夏、第二

十二号であった。

企画編集、すべて会員

が筆を執る。予算決定後



会員の手にあゆみ

連続県学校新聞コンクールで優秀賞に入賞。さらに全国小中学校 P T A 広報紙コンクールで佳作入選している。「学校や教育に対する疑問にこたえるような編集で、レイアウト、目的、企画、記録、自主性に努力と情熱が紙面ににじみでて読みやすく中身も濃いものとなっている」というのが受賞理由だった。

ことしも「しつけ」を特集テーマに一学期号が発行され、問題提起を行った。企画、記事との取り組みはすべて会員のアイデアから成っている。

県内の P T A 会報でみられる会長、校長の「ありきたりのあいさつ文」ではなく機関・広報紙というより新聞調の色彩が濃い。あいさつ文で問題提起を図るより、座談会、インタビュー形式で活字化し、ある程度の解答をふまえて会員が問題意識を持つといった具合に常取材者が考え、疑問点、問題点を浮きぼりにさせての心構えなどについて真剣に取り組んでいる。

< 石 川 >

活発な学年 P T A 活動

石川町立石川小学校 P T A

本会には六つの委員会があり、会員の自己教育を深め、豊かな児童生徒の育成を期して、活発に動いている。

ここでは、学年 P T A について述べる。

一、学年 P T A の組織
学年 P T A は、P T A への参加意欲を一層高めるため六年前に発足した

① 研修会、講師等を呼び、学習会、講演会等を授業参観後行っている。授業参観は毎月あり、懇談会もある。

② レクリエーション

学年のミニ運動会、親子ハイキング、芋煮会、ドッジボール大会、もちつき大会、花火大会等、日曜に主として行っている。こうして、互いの親睦を深め、自分の子どもだけでなく、どの子どもと心掛けているわけである。次の文章は花火大会の楽しさを表現したものである。

〇一年 東条まさみ
きょうははなびたいか

いでした。一ばんさいしよは、ダンスをやりました。ジェンカというダンスはとてもおもしろくてママも「つかれた」といつてたのしそくにやっていました。

つぎはキャンプファイヤーをやりました。ひのかみさまがきて、ひをつけたので、キャンプファイヤーはどんだんもえて、ほしになりました。とてもたのしかったです。

特 色 あ る P T A 活 動

< 相 馬 >

活発な奉仕活動と
補導活動

原町市立石神第一小学校 P T A

百年の歴史を持つ校舎も近代建築（鉄筋三階建）に生まれ変わったのが、五十四年度と五十五年の二カ年に亘ってであるが、旧校舎の一部を保存する意見が出て審議した結果、経費の関係もあつて割愛することになった。

旧校舎の跡地を花壇にする計画は初め、テストピールスを使って、父兄・児童・職員の手で進められ、五十四年度は一応、校舎周辺に潤いを持たせることができたと思う。

五十五年に入ると、市の協力もあつて花壇ブロックを使つての大規模な花壇ができ上り、父兄・児童の勤労により予定の花壇経営ができる

各委員会（教養、補導厚生、環境）の活動のバランスを失わないよう年度初めに百人に及ぶ常任委員会で計画を討議検討をして、活動が開始される訳だが、前述のように五十四年度、五十五年度は環境整備に重点が置かれた。

夏季休業に入ると、補導委員の危険場所の巡視に続いて、児童の球技大会、召集日に合わせて、ドッジボール、ソフトボールと校庭一杯に試合が繰り広げられる。

お盆には、校庭にやぐらを組んでの親子盆踊りと花火大会が催され、夏の一夜を楽しく過ごす大きな行事だ。

数年前、補導委員の口ききで結ばれた東京杉並の新泉スターズ（少年野球チーム）との交歓会も定例化し、毎年来原して今では市内の他校との交流も深まるようになった。又休業中には各学年委員長が中心になって、親子の集いが計画され、参加希望も昨年より今年と増えてきており、今後に期待する所が大きい。



楽しかった学年の親子
レクリエーション



交流を深めるスポーツ
大会



第28回全日P研究大会 開催 (於大分県)

釀芳小P副会長
鈴木晃氏 研究発表

八月二十一・二十二日の両日第二十八回日P大会が、大分・別府市の九会場で開催、九千人の参加者で熱心に討議された。本県より釀芳小P鈴木晃氏が東北を代表し、第三分科会において、「自らを高めるPTA全員研修の効果的な方策を考えよう」という題で発表された。実践に根ざしたテーマによる十年間の継続研修活動の内容は、参加員に深く感銘を与えた。また鈴木氏の自信に満ちた発表態度と質問への答弁は実に立派であった。

山形県が誇る蔵王温泉において、九月十二日・十三日の両日、第十二回東北PTA研究大会蔵王大会が開催された。

第12回東北P 研究大会開催

(於山形県蔵王温泉)

研究発表

福島三小P 玉熊伸子氏
鹿島中P 田村啓一氏

れた。

本県より、県を代表して福島三小P玉熊伸子氏が第二分科会で「子どもたちの健全育成を願う研修活動」を、鹿島中P田村啓一氏が第六分科会において、「地域全体でとりくむ環境づくりと校外活動」という題で夫々発表、いずれも各校で実践されている内容をよくまとめた発表され、参加者に深く感銘を与えた。

心豊かで、賢く、
健康やかな子どもの
育成をめざして

郡山市連P

◎ブロック別PTA研修大会
去る七月から九月にかけて、幼稚園、小・中学校・高校のPTA会員がブロック別に研修大会を開き、質の高い研修討議が行われた。

◎PTA親善球技大会
小中PTA会員が五ブロックで予選会を行い、男子(ソフト)、女子(バレーボール)の優勝チームが一堂に会して、十月十二日に全市大会を開く。

◎郡山市PTA大会
二十一世紀の未来社会を創造する心身ともに健康な子どもの育成を目ざして教育諸条件や教育環境の整備をはかるためにこの大会をひらき、決議されたものは、関係当局に要望する。

とき 十月二十四日
ところ 郡山市民会館

参加者 幼小中高十三百人
◎PTA教育講演会
PTA大会終了後教育講演会を開き研修する。

講師児童文学者 加古里子氏

球技大会開く

双葉郡連P

双葉郡連Pは、今年も郡連P球技大会を、去る八月三日(日)に行なつた。この行事は、初めは各単P相互の親睦を目的として始めたのであるが、最近では色々と問題もあり、開催について今年も話し合いをもったが、なんといつても、伝統ともいうべきものであり、永い間続いてきたものであるた

め、今年も実施することにしたのである。

七月二十八日(日)の予定であったが、雨のため延期したため、他の行事と重なり参加できないチームがそれでも五チームあつたが、ソフトボール一八チーム、バレーボール一九チームが参加し、双葉町において盛大に開催することができた。

また、十月六日(月)には、郡連P研究大会を双葉町体育館を会場に開催することになっている。

各郡市連P情報

前進 !!

耶麻郡連P

五月の総会以降、本連Pも①各単Pの情報交換を密にし②実質的な事業の推進③行政への力はたらしかけを中心に全力を結集している。

まず、県研究大会をはじめ、東北・全国の大会と、可能な限り多数の出席者を送っている。

次に、各単Pでは不可能な中央講師を招いての研究集会を必ず実施し、

和と活力

福島市連P

◆総会

本年度活動の旗上げ総会は、若葉薫る五月十二日県文化センターで、全員出席盛会裡に行われ特色ある有意義な活動と予算、事業計画等熱心に討議された。又、明年の東北PTA福島大会の準備に万全を期することを誓いあつた。

◆親善ソフト大会

この大会は、年々盛んになり、本年も六十九校中、六十五校の参加をみた。八月二十四日、長雨の合間に晴れた炎天下、八会場で一、二回戦を、続いて九月七日勝残つた十二チームによつて優勝が争われた。

結果は、実力伯仲ではあつたが、チームワークよろしく日頃の練習の成果と実力を発揮した。小学校福島二小、中学校信陵中が、それぞれ晴れの優勝旗を手にした。審判氏曰く、「全参加チームを優勝させたかった」印象的でした。